

ジオ太とジオ美の旅

⑫ 鵜ノ崎(うのさき)海岸

厳冬の2月、外は小雪が舞っています。それでもジオ太くんとジオ美ちゃんは元気いっぱい。「冬のジオサイトもすてき。まだ見たことのない鵜ノ崎海岸に行ってみましょう」と提案したのはジオ美ちゃん。ジオ太くんも鵜ノ崎海岸のジオサイト見学とあって今まで以上に張り切っています。それもそのはず、鵜ノ崎海岸では約1000万年前の女川層を見ることができるのですから。

ジオパーク学習センターから30分ほどで到着しました。「まるで洗濯板のような波食台が広がっているわ。球体の岩石(写真:右上)が点在しているけれどこれは炭酸塩鉱物を含んだ泥灰岩のノジュールね」とジオ美ちゃんは歓声を上げました。ジオ太くんも「地層をよく見ると、背斜や向斜をなしていることがわかるよ。これを地層の褶曲(写真:右下)というんだね」と地層を指差しました。これは水平に堆積した地層があとで大きな力を受けたということです。

「岩石に魚の化石が含まれているよ」とジオ太くんが興奮してジオ美ちゃんにその化石を見せました。海岸には丈夫で崩れにくい部分とたやすく崩れる部分が互層状になっている珪質頁岩(けいしつけつがん)の礫が積み重なっています。この頁岩を観察すると時には魚の骨などの化石を発見することができます。

「女川層の頁岩はシェールオイルでも注目されているわね」とジオ美ちゃんは頁岩をじっと見えています。女川層の当時の海は珪藻が大繁殖し殻とともに海底に堆積し石油になったと考えられます。

今年最初のジオサイトの旅は、新たな発見がたくさんありました。石油が長い時間かかってつくられていることもわかりました。「だからこそ資源は大切にしなくちゃ」と2人はお互いうなづきました。

